

授業改善書

科目名	西洋史学入門
担当者	伊藤 栄晃

授業の概要

本講義は、歴史を叙述・研究し学ぶ営みが西洋でどのようにして生まれ育まれてきたかを、古代地中海世界の戦争の記述から始め、現代英仏の「社会史」研究の最先端にいたるまでの歴史を概説する。西洋の歴史学・歴史叙述の最大の特徴は、過去を描くことにどのような意味があるのか、そして過去をどのように描くかという問題に常に真剣に取り組んできたことにある。本講義ではこの歴史哲学上の問題を、第一に歴史観という思想の問題として、第二に歴史叙述のスタイルや歴史調査研究方法という技術の問題として、講じる。加えて史料の取り扱いや歴史事実の批判的検証などの技術的課題に研究者がどのように取り組んできたかという問題にも触れる。時代背景としての現実の歴史過程の紹介も、可能な限り実施する。

授業の問題点

アンケートからは、①予習復習（授業外学習）の実施ならびに②授業内での質問や発問の実施の2項目のポイントがともに3台と低めであり、ここに課題があるといえる。

学生の授業満足度

上記2項目以外の諸項目のポイントは、すべて4ポイント台をキープできた。これは、比較的高い評価と見てよい。歴史というものを、単に事項の暗記ではなく、人間の根源的認識ツールであることを、時代を追って順に説いてゆくスタイルが、評価されたものと思われる。

授業改善の課題と方策

上記の評価に基づき、来期授業についても基本的な授業コンセプトはこのまま更に深めてゆくのが良いと思われる。また上記の2点については、双方向の授業スタイルを全学共通科目でどのように確立するかという問題への取り組みが必要である。そのためには授業で取り上げる項目の優先順位を更に明確にし、絞り込むことが肝要である。

その他

必須レポート課題は、受講生にはやや負担と思われるが、結果としてはレポート提出ができた受講者のほとんどが合格できているという実績からすれば、その学習効果は明らかであり、今後も継続してゆく。

授業改善書

科目名	西洋史資料講読
担当者	伊藤 栄晃

授業の概要

西洋史研究の世界で、今日国際的にもっとも注目されているテーマのひとつに「カリブ諸島（西インド諸島）」プランテーションにおける黒人奴隷の人口と出生・死亡、そして親子関係が挙げられる。本講義は、英国ブリストル大学の特殊史料として保蔵されている「ピニー家文書」の読解を試みる。この文書は、18世紀から19世紀にかけて英領西インド植民地の小アンティル諸島ネイヴィス島で、大規模砂糖プランテーションを経営したブリストル市出身の「ピニー家」が残した膨大な文書類で、日本では初公開になる。まず授業の前半で、西インド諸島のプランテーションについて基礎知識を養い、その上で史料の解読に取り組む。

授業の問題点

アンケート上では、① 学習態度のうち質問発言の項目のポイントとノートの項目が3台に留まっている。また② 予習復習の実施や授業内容への興味関心のポイントもやや低いのが気になる。

学生の授業満足度

上記の2項目を除きすべて4ポイント台であり、満足度は比較的高いと見てよい。授業テーマならびに実際のイギリスの近世文書を用いて、その歴史的意味を考察したり、その読解を試みる授業が、興味を引いたものと思われる。

授業改善の課題と方策

- ① については、受講生の質問・発言を引き出し講義者との双方向の授業を確立する工夫がさらに必要と考える。そのため、例えば課題作業の取組の途中で意見を求めるなどはできると思う。
- ② については、興味関心を高めるため、まずは西インド近世プランテーション社会という日本人にはあまり馴染みのないテーマについて、より丁寧に講義し基本的知識の養成に努めたい。予習復習については、各回授業の終わりに宿題の形で課題として実施してもらうことを工夫したい。

その他

従来この授業では重要文献の必須レポートの提出を求めてきたが、今期は実験的にそれを取りやめて近世英語史料の読解を重視した授業づくりを試みた。その結果「資料講読」らしい展開は確保できた一方で、基礎知識や興味関心の面で課題が残った。来期は再びレポート課題を復活させながら、それと史料読解との両立を目指したいと思う。